



げんきな子 がんばる子 やさしい子

# 園だより

2月号

北区立さくらだこども園  
園長 西澤 尚子

## 寒い日っておもしろい

副園長 本橋 房子

園庭では梅の花が次々と咲き、子どもたちは花の匂いを嗅いで「いい匂い」「もう春だね」とつぶやいています。穏やかな暖かさを感じる日も多く春が近いと思いきや、1月下旬には過去最強クラスの寒波が日本にやってきて東京でも氷点下を記録する日が数日続きました。

厳しい寒さであっても、園庭ではいつものように子どもたちが元気いっぱいに遊んでいます。そして、畑の霜柱に気付いた子は、霜柱を集めたり、おもしろそうに踏んだりしています。また、登園したときに池に氷が張っているのを見つけた子は、それを保育者に伝え、みんなで池を見に来てそっと氷に触ってみては「わあ、冷たい！」と氷の感触を楽しんでいます。

3, 4歳児が園庭で遊んでいると、いろいろな場所に水の入った「実験中」と書かれた容器が置かれていることに気付きました。集まって見ていると、5歳児が来て「氷を作っているんだ」「氷プロジェクトっていうんだよ」「どこで凍るか実験しているところ」「見てもいいけど動かさないでね」と伝えていました。

年長児の声に耳を傾けていると、「ここが一番いいよ。寒いと思うから」「こっちは日陰だから寒いんだよ」「水がいっぱいの方がいいと思う」と友達同士で言い合っていました。そして、それぞれに一番凍りそうな場所を考えて置いていました。翌朝、わくわくしながら自分が置いた容器を確認しに行き、「わー！凍った！」と歓声をあげる子、「凍っていない」と残念がる子…。できた氷の冷たさやなめらかさ、厚さの違い、透き通る美しさなどを感じ、友達や保育者に知らせたり、周りの子の様子を見たりして、また氷ができるように水の量や入れ物の形、場所などを考えて置き始めます。

保育者は、子どもの考えたことを尊重し、試せる時間や場所を確保して子どもたちの思いに沿って援助したり、嬉しさや楽しさに共感したりしています。また、なぜ凍ったのか、凍らなかったのか考えを引き出すような言葉掛けや、それぞれの思いや気づきが友達と共有できるような場面の設定なども工夫しています。

自然と関わる中で、その不思議さ、おもしろさを感じ、自分で考えること、自分でやってみること、うまくいったりいかなかったりすることの体験、また、それを言葉にして伝え合い、人と共有することは、子どもたちの好奇心を高め、探究心を深めることにつながり、自ら学ぶ力を育てていきます。

わくわく楽しい発見がたくさんさくらだこども園の園庭。もう少しすると、秋に植えた球根の花も咲き始め、池にはカエルが卵を産みにくることでしょう。これからもさくらだの豊かな自然の中で子どもたちの発見を大切にしていきたいと思えます。保護者のみなさまもお子さんと一緒にいろいろな発見を楽しんでみてはいかがでしょうか。

### — 今月の指導のめあて —

- < 3歳児 >
  - ・遊びや生活の中で、自分の気持ちを動きや言葉で表して相手に伝わったときの心地よさを感じたり、やり取りを楽しんだりする。
  - ・動物やお話の登場人物になって動いたり、楽器を鳴らしたりしながら、学級のみんなの中で自分なりに表現することを楽しむ。
- < 4歳児 >
  - ・気の合う友達と一緒に遊ぶ中で、自分の思いを言葉にしたり、相手の思いを聞いたりする。
  - ・年長児との関わりを通して親しみを感じ、あこがれや感謝の気持ちをもつ。
  - ・学級全体でする活動を楽しむ中で、友達とのつながりを感じる。
- < 5歳児 >
  - ・自分のめあてをもってあきらめずに挑戦したり、繰り返し取り組んだりする楽しさを味わう。
  - ・友達と一緒に生活や遊びを進めるの中で、自分の力を発揮したり、友達のよさに気付いたりする。
  - ・友達とのやり取りや、グループでの活動の中で、自分の思いだけでなく相手のことも考えながら行動しようとする。